

平成27年千葉市教育委員会会議
第12回定例会会議録

千葉市教育委員会

平成27年千葉市教育委員会会議第12回定例会会議録

日時 平成27年12月22日(火)

午後2時00分開会

午後3時30分閉会

場所 教 育 委 員 会 室

出席委員 委 員 長 中野 義澄
 委 員 内山 英夫
 委 員 和田 麻理
 委 員 明石 要一
 委 員 小西 朱見
 教 育 長 志村 修

| | | | | |
|------|-------------|-------|-------------------|-------|
| 出席職員 | 教 育 次 長 | 森 雅彦 | 教育センター所長 | 池田 亘宏 |
| | 教 育 総 務 部 長 | 米満 実 | 養護教育センター所長 | 植草 伸之 |
| | 学 校 教 育 部 長 | 磯野 和美 | 生涯学習振興課長 | 増岡 忠 |
| | 生涯学習部 長 | 大崎 賢一 | 生涯学習振興課科学都市戦略担当課長 | 西村 安正 |
| | 参事兼企画課長 | 大橋美帆子 | 中央図書館管理課長 | 小池 幸江 |
| | 総 務 課 長 | 石野 隆史 | 総務課総括主幹 | 相楽 俊洋 |
| | 学 校 施 設 課 長 | 真田 賢一 | 学事課課長補佐 | 浅井 滋 |
| | 学 事 課 長 | 渡邊 博典 | 文化財課課長補佐 | 芦田 伸一 |
| | 教 職 員 課 長 | 伊藤 剛 | 企画課管理主事 | 佐藤 啓之 |
| | 県費移譲課長 | 大野 治充 | 企画課広報広聴推進班主査 | 掛川 浩司 |
| | 指 導 課 長 | 伊藤 裕志 | 指導課指導主事 | 中山亜矢子 |
| | 保 健 体 育 課 長 | 中村 宏 | 生涯学習振興課科学都市戦略班主査補 | 三橋 勉 |

| | | | | |
|-----|----------|-------|---------|-------|
| 書 記 | 総務課長補佐 | 三田日出美 | 総務課主任主事 | 杉山 隆 |
| | 総務課総務班主査 | 大塚 暁 | 総務課主任主事 | 佐久間暁子 |

- 1 開会
中野委員長より開会を宣言
- 2 会議の成立
全委員の出席により会議成立
- 3 会議録署名人の指名
中野委員長より明石委員を指名
- 4 会期の決定
平成27年12月22日（1日間）ということで全委員異議なく決定
- 5 議事日程の決定
議事日程を全委員異議なく決定
- 6 会議録の承認
平成27年第7回定例会会議録を全委員異議なく承認
- 7 議事の概要
 - (1) 報告事項
報告事項(1) 平成27年第4回千葉市議会定例会について
石野総務課長より報告があった。
報告事項(2) 平成28年度千葉市立稲毛高等学校附属中学校入学者選抜の志願者数について
大橋参事兼企画課長より報告があった。
報告事項(3) 学校体感デー～食べて！触れて！語り合おう！in 緑町～について
大橋参事兼企画課長より報告があった。
報告事項(4) 平成27年度研究報告会・研究大会について
伊藤指導課長より報告があった。
報告事項(5) 平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果報告について
中村保健体育課長より報告があった。
報告事項(6) まなびフェスタ2015・第60回社会教育功労者顕彰について
増岡生涯学習振興課長より報告があった。
報告事項(7) 平成27年度千葉市未来の科学者育成プログラム・ジュニア講座について
西村生涯学習振興課科学都市戦略担当課長より報告があった。
 - (2) 発言の要旨

報告事項(1) 平成27年第4回千葉市議会定例会について

中野委員長 総務課長、報告をお願いします。

石野総務課長 報告事項(1)「平成27年第4回千葉市議会定例会について」、報告します。

第4回千葉市議会定例会ですが、11月27日から12月16日まで、記載のとおり、議案質疑、教育未来委員会、代表質問、一般質問等が行われました。

次に、教育委員会に関する提出議案の審議状況について報告いたします。

さきの教育委員会会議第11回定例会において、議案の提出についてご審議いただいた平成27年度千葉市一般会計補正予算及び指定管理者の指定について(千葉市生涯学習センター)についてですが、教育未来委員会等の審査を経て、12月16日の本会議において可決されました。

次に、議案質疑等についてですが、議案質疑につきましては4人から通告があり、うち2人が教育委員会に関する質疑を行いました。

代表質問につきましては4会派から通告があり、全てが教育委員会に関する質問を行いました。

一般質問につきましては22人から通告があり、うち10人が教育委員会に関する質問を行いました。

説明は以上です。

中野委員長 それでは、審議に移りますが、質問等を含めまして何かございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、こちらのほうはご質問はありませんので、報告事項(2)のほうに移らせていただきます。

報告事項(2) 平成28年度千葉市立稲毛高等学校附属中学校入学者選抜の志願者数について

中野委員長 企画課長、報告をお願いします。

大橋参事兼企画課長 報告事項(2)「平成28年度千葉市立稲毛高等学校附属中学校入学者選抜の志願者数について」、報告します。

平成28年度千葉市立稲毛高等学校附属中学校入学者選抜の志願者数についてでございます。12月14日・15日の両日、願書の出願受付を行い、志願者数が下記のとおり決定したのでご報告するものでございます。

募集定員男女40名ずつ計80名のところ、志願者数は男性310名、女性365名、合計675名の志願者数でございました。倍率は、男性7.8倍、女性9.1倍、全体で8.4倍となっております。

ご参考までに、下が昨年度の志願者数及び倍率でございます。倍率が1ポイント下がっておるわけですが、去年まででなかった要素としましては、県立東葛飾中学校の開設ということがございます。

今後ですが、1月30日に検査の実施をいたしまして、2月5日に選抜結果の発表、2月8日に入学確約書の提出となっております。

以上でございます。

中野委員長 ありがとうございます。

審議に移りますが、質問等を含めまして何かございますでしょうか。

和田委員 倍率はここのところ10倍前後で、多少、少しずつ下がってきていたかと思うのですが、今回1ポイントということで、この数年の中では大きく下がったなと感じます。この理由として、今、課長からも、東葛飾中学の開校ということが挙げられるということだったのですが、新しく開校する東葛飾中学は何か特色を出しているのか、稲毛中のような特色を出して募集しているのかということが1点と、それから、市内では県立千葉中がやはり附属中としてありますけれども、こちらの倍率もやはり同じように今年度少し減っているような傾向があるのかということをお教えいただければと思います。

大橋参事兼企画課長 東葛飾中学校ですが、稲毛中学校のように中高一貫校という同じタイプであるということは見えてとれますが、中学校の学習内容の詳しい分析はまだできていません。ただ、高校からの医療系のコースを26年に開設しているところは、稲毛やほかの高校と違った特徴かと思えます。

千葉中学校のほうですが、ことしの倍率は、全体としては9.9倍となっていて、去年が11.4ですので、下がってはいるところでございます。

いずれにしても、入学者の入試の成績ですとか、詳しく分析をする必要があると考えています。

和田委員 はい、わかりました。もちろん、減ったといってもまだまだ

すごく高い倍率なので、そんなに大きく気にすることではないのかなと思いましたが、県立千葉中も同じようにということでしたので、同じ傾向があるということで、わかりました。ありがとうございました。

中野委員長 ほかにいかがでしょうか。

東葛飾中学校は、場所はどこにあるんですか。

大橋参事兼企画課長 柏市です。

中野委員長 そこに生徒が千葉市から流れますか。ちょっと離れていますよね。

大橋参事兼企画課長 受ける生徒の成績の層ですとか、どこの地区の子どもが通うかとか、そのあたりも含めて分析が必要と考えています。

志村教育長 東葛飾中学校の受験倍率は約1.4倍で、県立中学校は全県1区ですので、千葉中の受験生が減るのはわかりますよね。東葛地区の子どもたちは、今まで千葉中しか受けられなかったのが向こうにもできたわけですね。

そうすると、本市の子どもたちが千葉中を受けやすくなるから、多少千葉中に動いた結果、稲毛附属中が一番学区としては狭いので、倍率が1ポイントぐらい下がったと思います。それでも、8.4倍を維持したというのは、やはり千葉市内の学校にはよく理解されていると私どもは思っています。

中野委員長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、報告事項(3)に移ります。

報告事項(3) 学校体感デー～食べて！触れて！語り合おう！in 緑町～について

中野委員長 企画課長、報告をお願いします。

大橋参事兼企画課長 報告事項(3)「学校体感デー～食べて！触れて！語り合おう！in 緑町～」について、報告します。

学校体感デーということで、11月12日(木)に緑町中学校・小学校で開催させていただいたものでございます。参加人数は24名となっております。

そこでとったアンケートの結果をまとめております。

参加いただいた年代は30代から40代が多うございましたが、全体として20代の方から70代の方まで満遍なくいろんな年代の方に参加していただきました。イベントを知ったきっかけ

といたしましては、「市政だより」が一番多かったです。

続いて、給食の試食や授業見学、電子黒板の体験ですとか教育委員の皆さんとの意見交換、その後部活見学というメニューをご用意させていただいたのですが、どれも満足度が高かったかと思えます。特に給食は、どなたもご満足いただけたような結果でございました。電子黒板に「不満」と書かれた方もいらっしゃいましたが、電子黒板は作動にちょっとふぐあいがあったりしてうまくいかなかった点がございましたこと、また、意見交換で不満と言われた方は、もう少し時間があったらいろんな意見が言えたということで、個別のご意見をいただいております。

続いて、このイベントを通じてどういうことがわかったかという質問に対しましては、より学校教育について知ることができたですとか、千葉市の学校教育に関心が持てたですとか、教育委員の考えを知ることができたというところで、「とてもそう思う」という回答が多うございました。

あと、個別の感想をまとめてございますが、特に給食体験を通してさまざまなことが学べるのはすばらしかったと、中学校の取り組みを実際に体験したり、話が聞けてよかった、電子黒板にはいろんな問題があると感じた、教育委員との意見交換がもっとできればと思ったというような感想をいただいております。

いずれにしろ、24名の方は満足度は高かったわけですが、このイベントの、もう少し広くいろんな方に参加していただく方策ですとか、また、24名という非常に限られた方に対するイベントになってしまっているところをどう改善していくか、あと費用対効果の視点も含めまして、来年度こういうイベントをどんなふうな形で継続・改善していくかということについて、また検討を進めていきたいと考えております。

以上です。

中野委員長 ありがとうございます。

では、審議に移りますが、質問等を含めまして何かございますでしょうか。

明石委員 意見ではなくて感想ですけど、イベントを知ったきっかけが、「市政だより」が11名で44%というのは意外に思ったんです。紙媒体の効果がこれほどあるとは知らなかったですね。多分、「市政だより」の新聞の折り込みがメインだと思いますけれども、そうするとこの層は新聞をとっている層だと思うんです。今、30

代はほとんど新聞をとることをやめていますけれども、その中でも新聞をとっている30代と40代以上という層が来ているかなというのが1点。

2点目は、「知り合いから聞いた」というのが7人いるという。そういう隣近所と知り合いのネットワークがある人が来たのかなというのがございまして、非常に個人的には、この24名という少ない数だけれども、ある層の姿がわかったかなと。

3点目は、「教育委員の考えを知ることができた」とありますが、これは私ども怠慢で、やはり教育委員会の若い人たちがこういう体感デーをやってくれたから市民の方と触れ合うことができたので、これは非常にいい試みだと思います。確かに、遠いところに教育委員はいると思っているんだけど、直に接してよかったと。

そうすると、今回は2回目でしょうが、あと1回ぐらいやった後、私はこういう体感デーは3回やればいいと思うんです。また違う企画を教育委員会の若い人に考え出してもらって、できたら、6つの区がありますから、1つの区にアウトソーシングというか、出前の教育委員会をやるとか、逆に出ていくというような発想をしていかないと。「近くの教育委員会」「身近な教育委員会」というキャッチコピーをつくっていくといいかなと思いました。

中野委員長 出前の教育委員会議というのは、前にも話は出ましたですね。あれはどうなったんですか。

大橋参事兼企画課長 1月に、PTAの関係者とまた懇談するような機会を設けさせていただこうと考えております。教育に近い団体を中心に、また懇談会を何回か組ませていただきたいと思いますので、ご協力いただければと思います。

中野委員長 ほかに。

内山委員 「参加者の主な感想」で、「教育委員との意見交換の時間がもっとあればよかった」とありますように、私は、話し合いをするとしたら20名前後が一番いいのではないかと思うんです。ただ、ある意味ではもっとたくさん参加していただきたい気持ちもありますけれども、もしこういう試みで意見交換するのであれば、やはり人数はある程度絞らないと散漫になるのではないかと思いますけどね。そんな感想を持ちました。

中野委員長 よろしいですか。

和田委員 私も非常に迷うところで、今、内山委員がおっしゃったよう

に、やはり意見交換となると少ない人数ならではの結果が得られたなと思います。一方で、今回参加された方の中でも、前回も伺ったのですが、募集人数がもともと少ないので当たらないと思って最初から出すのをやめたという人が周りにいたという声があったので、となると、やはり募集人数をもう少し増やしていくような工夫も必要なのかなと感じました。

ただ、給食試食に関しては人数が限られているということでしたので、当日、事後の私たちの話の中でも出ましたけれども、給食に関しては人数を限っても、その後の授業参観ですとか私たちとの意見交換の中で、もっと100人とか、できれば人数を増やしていくようなやり方もできるのかなと思いました。まだ2回目ですので、これからどんどん改善の余地があると思いますので、一緒に頑張っていきたいと思います。

中野委員長 よろしいでしょうか。

意見交換会については「満足」という方が13人しかいなくて、54%と少ないのですけど、「教育委員の考えを知ることができた」というところになると、「そう思う」という人が大分増えていたりします。これはどういう理由なんでしょうか。余り満足していないのに意見が分かれた。何かちょっと乖離したような……。

和田委員 無回答が多かったんですね。

中野委員長 無回答ですか。でも、いい企画でした。また続けて開催していただきたいと思います。よろしいでしょうか。

報告事項(4) 平成27年度研究報告会・研究大会について

中野委員長 指導課長、報告をお願いします。

伊藤指導課長 報告事項(4)「平成27年度研究報告会・研究大会について」、報告します。

まず、研究指定校の目的でございますが、今日的教育課題並びに千葉市学校教育の課題解明を図るため、指定された課題や各学校が設定する研究主題の調査・研究に当たり、その成果を本市教育の向上に資することであります。

本年度は19校を研究校として指定しております。各指定校には、学習指導要領の円滑な実施に向けて、理数教育の充実、小中学校の連携の推進等の今日的な教育課題の解明や学習指導の工夫・改善などをテーマとして2年間の研究を委嘱しております。指定校においては、確かな学力の育成を目指した「わかる授業」

の推進や、豊かな心、健康な体を育む教育実践等の成果が報告されました。

それでは、報告会を実施した9校の取り組みや授業の様子を、子どもたちの様子を交えてご紹介いたします。

まずは、海浜打瀬小学校です。「自ら問える子を育てる算数学習～評価と指導の一体化を通して～」を主題に研究報告会が行われました。「ふきだし」を用いて、子どもたちの疑問や発見を文字化して共有することに取り組み、子どもたちが自己の変容を捉え、学習に対する成就感や達成感を味わえる授業を工夫いたしました。この取り組みが評価されまして、本年度の時事通信社「第30回教育奨励賞」優良賞の受賞校となりました。

続きまして、11月10日は上の台小学校で、「運動に親しみ、主体的に学び続ける子供の育成」という主題のもと、めあて学習の実践と運動の日常化を研究の柱とした報告が行われました。子どもたちみずからめあてと具体的な見通しを持って学習に取り組み、主体的に活動する授業が展開されました。

11月13日には、金沢小学校で「学習の楽しさを味わい、進んでかかわりを持つ子どもの育成～主体的に考える学習を目指して～」を主題に、算数科の研究の成果が報告されました。問題解決における子どもたち同士のかかわらせ方を工夫し、学びに対する意欲を高める授業が展開されました。

11月20日には、緑町小学校で「感動と創造の教育～『みえないもの・こと』にせまる問題解決～」を主題に、理科と生活科の授業の工夫・改善が提案されました。子どもたちの心を動かす教材や学習形態の工夫、思考を深める話し合い活動の工夫についての報告がありました。「みえないもの・こと」を追求することを窓口にして、見る・見直す活動を充実させ、観察、実験を通して考える楽しさを味わう授業が展開されました。

緑町小学校におきましては、これまでの取り組みを評価され、文部科学大臣表彰創意工夫育成功労学校賞を受賞しました。

11月24日には、若松小学校で健康教育の研究報告会が行われました。「健康的な生活を習慣化できる児童の育成」を主題に、体育科、家庭科、学級活動の授業が展開されました。生活リズムの形成・改善を目指し、環境を整え、より具体的な指導を行うことにより、子どもたちが主体的に健康的な生活のあり方を考える取り組みが報告されております。

1 1月25日には、都賀小学校で「かかわり合い、考えを深める子どもの育成」を主題に、国語科、生活科、理科の授業が展開されました。目標を明確にし、問題を解決していく過程における子ども同士の交流及び事象を繰り返し見直す活動に重点を置き、考えを深めながら学習を進める姿が見られました。みずからの変容を振り返る手だてについても工夫がなされておりました。

1 1月27日には鶴沢小学校で、社会科、生活科の授業を通して、みずから学び続ける力を育むために「心はずませる学びの創造」を主題に報告会が行われました。社会とのかかわりを意識した問題解決的、体験的な学習、そして、「なぜそういった工夫が必要なのか」、「どうしてそうなっているのか」に迫る授業が展開され、学ぶ意欲にあふれた子どもたちの姿を見ることができました。

この報告会につきましては、関東地区小学校社会科研究協議会及び千葉県教育研究会社会科教育部会の研究大会の一環として、大森小学校、美浜打瀬小学校との同時開催となりました。

1 2月4日には、宮野木小学校、緑が丘中学校の「『施設分離型』における小中連携の在り方」を提案する研究報告会が行われました。9年間を見通した学びの連続性を共有し、小中の教員が協働して、多面的な視点から児童生徒の成長を支援する取り組みが報告され、英語教育を初め、連携のよさを生かす提案があり、今後の小中連携の充実に資する内容でございました。

1 2月9日は、「たがいに知り合い、一人一人を認め合う児童の育成」という研究主題のもと、特別支援教育の研究報告会が千城台北小学校で行われました。「ふれあい」から「かよいあい」へ発展する交流及び共同学習を通して、互いに刺激を受けながら変容していく児童の姿が見られるとともに、合理的配慮につながる支援のあり方が提案されました。

今年度も、教員としての資質向上を目指した若年層教員の参加も多く、参加者のよき研修の場として捉えております。また、初任者研修の一環として研究報告会に参加した初任者からは、子どもたちが主体的に取り組むための目的意識の持たせ方、本事業の狙いに迫る具体的な手だてが大変勉強になったというような声が聞かれました。さらには、報告会の会場校において授業を展開した若年層教員の成長というものを、実感することができました。

今後は、これらの研究成果を広く市内の学校で共有していきま

す。教育委員の皆様方には、複数の研究指定校の報告会にご出席、ご参加いただきまして、大変ありがとうございました。

以上でございます。

中野委員長 ありがとうございます。

それでは、審議に移りますけれども、ご質問等を含めまして何かございますでしょうか。

小西委員 私も幾つかの学校に参加させていただいて、完成度のすごく高い報告書と発表に毎回先生方の努力に頭が下がる思いで参加させていただいています。いつも大体授業見学をして、あとは先生方の報告をお聞きして、その後講演があるという流れになっているのですが、参加されている若い先生方の意見とか質問とかそういうものを意見交換する、そういう場はあるのかどうかをちょっとお聞きしたいなと思いました。

というのも、私たちが見る研究報告会は、2年間の集大成で一番すばらしいところを見させていただいていると思うのですが、先生方は2年間の間にすごく悩んだり苦労したり、それを乗り越えたりしてその場があると思うので、その途中経過を若い先生方に知って共有していただくというのがすごく大事だなと思っているので、そのあたりはどういうふうな工夫をされているかとか、そういう場があるのかというあたりをちょっと聞かせていただければと思います。

伊藤指導課長 授業展開後のあり方ですけれども、いろいろな方法がありまして、講演会みたいなものでその研究内容を補っていただく場合もありますし、また、授業後の話し合い、これは参加者が入って授業の意図等を授業者が説明して話し合う場を持つ場合もございます。

今回の報告会は、ほとんど講演だったので、多分そういったイメージをお持ちなのかなと思いますけれども、いろいろな方法でその成果を広めるようにしております。また、参観した場合には、参観記録といいますか、そういったものを参加者に必ず求めていますので、その中で出た意見については学校はもとより指導主事のほうもそれを踏まえて、今後の指導に活かしていく形で進めております。

中野委員長 よろしいでしょうか。

小西委員 はい。

明石委員 ちょっと一つ質問ですけれども、指導課が研究指定をお願い

する場合の主題がありますよね。主題の文言まで指定しているのか、そこまで当該学校に任せるのか。例えば、海浜打瀬小の主題で「自ら問える子を育てる算数学習」というのがありますね。それまでは指導課が示して、サブテーマの「評価と指導の一体化」は当該学校に任せたのか。どこまでの縛りがあるのかちょっとお聞きしたいと思ったんです。

伊藤指導課長 研究主題等につきましては、縛りはございません。これは各学校で独自に決めております。研究指定をする場合には、基本的には学校の立候補ですので、学校のほうがこういう研究をしたいと決め、それに対して研究主題を立てていく。あとは指導主事のほうが助言、指導していくという形で行っております。

明石委員 わかりました。私個人は、主題は、言葉は悪いけれどもどこでもありそうな主題が多くて、サブタイトルに学校のカラーが出ているかなというふうに見ました。

例えば、打瀬小の「評価と指導の一体化」というのは非常に悩むところで、問題提起型になっている。タイトルでも非常に触発されそうな問題。

次に体育で、「わかる・できる」とあるけど、「そしてつながる」と言っていましたね。やはりP CとかI C Tとか語学というのは、「習って、慣れて、使いこなす」とか、何かそういうワン、ツー、スリーがありますよね。

それとか、緑町小学校の「みえないもの・こと」なんていうのは、これは非常によく考えたテーマで、子どもたちの脳を活性化させているなという感じがしました。

宮野木小の場合は、興味があったのは「施設分離型」における9年間。一貫ではなくて、これは千葉市の方式で、別々な連携型の、多分連携型だと思いますけれども、これを施設分離型という言葉を使いながら問題提起している。

一番最後の大森小と鶴沢小は、「みえる わかる・・・いかす」という、こういうことは、非常に私は研究指定校がよく頑張ってくれているなという感じがしました。

その割にはどうも主題がどこでもあるような…、それでお聞きしたんです。指導課からお願いしたのかなと思ったんだけど。やはりその辺を考えて何か視点を出さないと、せっかく2年間やるのだから。そういうことを若い先生方とディスカッションすると、なぜこういう形でテーマを選んだかということ、ああ、そうかとい

うことがわかんと思って。小西委員と同じような意見ですけど。

志村教育長 主題については、学校教育目標から具体化してくるケースが結構多いのです。だから各校の研究主題が比較的似てくるんです。テーマにかかわって2年間やろうということで、もう少し具体化していく中でサブテーマとして考えることになるから、サブテーマのほうが魅力的な部分が表現されてくるのです。研究というものは研究で独立しているものではなくて、研究を通して学校教育目標を実現していくためにやっていますから、どうしても主題は学校教育目標の具現化に近い形で、今言ったようなあんまり変わりがいい印象になります。ただ、教育委員会のほうからこうしなさいということは一切やっていません。あくまでも千葉市の場合は学校の主体的なものなのです。

明石委員 なかなかおもしろいですね。

志村教育長 ええ。だから、研究主任の考え方とか、先生方がそのサブテーマにどうやって絞り込んでいくかというプロセスは、やはり学校の先生でないとうからないかもしれませんね。

中野委員長 指導課長、よろしいですか。

伊藤指導課長 学校教育目標と連動していることが一番大きいです。指定期間である2年間は内容を絞り込まないと、なかなか研究が焦点化できないので、そういった意味では副題はかなりそれに沿ったものになってきます。

中野委員長 ほかによろしいでしょうか。

和田委員 感想になるのですけれども、先ほどご説明にもありましたが、やはり若い先生方が非常に頑張ってくださいっていて、研究主任もここ数年、本当にどんどん若くなっているんだなということを実感しました。やはり若い先生たちの研修、研究の場としても非常にすぐれていますし、成長の機会にもなると思います。

あと、若い先生というのはどうしても人数が多いので、その中でモチベーションを保ちながら自分が頑張っていこうというような機会を与えられるということが、なかなか、難しいのかと思います。人数が多いと埋もれてしまうということとか、目立つのはよくないのではないかと思ったりとか、いろいろあると思いますので、そのあたりのことがうまくこれからも回って行って、若い先生方にぜひ頑張っていたいただきたいなと思いました。たくさん勉強させていただきました。ありがとうございました。

中野委員長 よろしいでしょうか。

それでは、次に、報告事項（５）に移ります。

報告事項（５）平成２７年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果報告について

中野委員長 保健体育課長、報告をお願いします。

中村保健体育課長 報告事項（５）「平成２７年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果報告について」、報告します。

報告事項（５）「平成２７年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果報告について」でございます。

この調査は、平成２０年度から児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣等を把握し、体育・保健体育や健康等に関する指導の改善に役立てることを目的に実施されております国の悉皆調査です。

対象は小学校５年生と中学校２年生の児童生徒となります。

調査は、実技に関する調査と質問紙調査が行われており、実技に関する調査は、握力、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、２０メートルシャトルラン、５０メートル走、立ち幅跳び、小学生がソフトボール投げ、中学生はハンドボール投げの８種目で実施されております。

また、質問紙調査は、運動習慣や生活習慣に関する調査を質問紙にて回答する調査となっております。

実技の結果でございます。全国と千葉市の平均値を種目ごとに掲載しております。ランクとは、全国４７都道府県のランキングに本市の数値を当てはめた場合の順位を示したものです。例えば、本市小学校５年生、男子の握力の平均値１６．６９キログラムは、全国都道府県のランキングでは１２位に当てはまる数値であるということです。全国の政令市を含め、市単位では平均値は公表されておりませんので、全国都道府県に当てはめてランクをつけてみました。また、体力合計点とは、各種目を１０点満点で点数化した８種目の合計、満点で８０点というものになります。

体力合計点を見ますと、小学校５年生男子が５５．２５点で、全国平均を１．４５点上回り、女子も５６．９９点で全国平均を１．８１点上回り、全国の順位に当てはめると、男女とも１０位の記録でした。

また、中学校２年男子は４４．５３点で全国平均を２．６４点上回り全国５位、女子も５３．１６点で全国平均を４．０８点上

回り、全国2位に当たる好記録でした。

本市の小学校5年生と中学校2年生の体力・運動能力は、全国平均を大きく上回っていることがわかります。特に中学生については、男子の50メートル走、女子の長座体前屈と立ち幅跳びは全国1位に当たる好記録です。

種目ごとに見ますと、小中学生の男女ともに、特に長座体前屈と立ち幅跳びが全国平均を大きく上回っている半面、小学校5年生は男女ともにソフトボール投げ、中学校2年男子は握力と20メートルシャトルランが全国平均を下回っていることがわかります。

今後は、投げる等の運動経験を増やすとともに投げ方の指導が必要であり、また、準備運動等で持久力を伸ばすような継続的な取り組みも拡充してまいりたいと考えております。

各学校で具体的な取り組みが広がるように、研修会等で事例等を提案していききたいと思っております。

児童生徒の運動習慣や生活習慣に関する質問紙調査の結果でございます。

小学校5年生、中学校2年生の調査結果を一部抜粋して掲載してあります。

小中学生男女に共通している傾向は、運動が好き、運動が大切と回答している割合が全国平均を上回っていることです。また、体育・保健体育の授業が楽しいとの回答も、全国平均を大きく上回っています。今後も引き続き、体育・保健体育の学習の充実をまず図ることで、運動を好きという児童生徒の育成に努めてまいりたいと考えております。

また、「オリンピック・パラリンピックへの気持ち」については、ほぼ全項目で全国平均を上回っており、関心の高さがうかがえます。引き続き、アスリートとの交流、具体的にはロッセマリーナス、ジェフ、車椅子バスケット、ウィルチェアーラグビー等との交流を通して、スポーツのすばらしさを認識させ、スポーツへの関心を一層高めていきたいと考えます。

本日も報告いたしました内容は、スポーツ庁が集計したデータの概要です。12月に発表されたものです。今後、データをさらに読み込み、本市児童生徒の体力・運動能力向上に役立ててまいりたいと思っております。

以上、報告です。

中野委員長 ありがとうございます。

それでは、審議に移りますけれども、質問等を含めまして何かございますでしょうか。

小西委員 一点、ちょっと読み方がわからなかった部分がありまして、児童質問紙のQ7の「曜日ごとの運動時間」のところですが、平均値が624.34、標準偏差502.31、T得点50.6というのは、これは何の数値になるのかがちょっとわからない。いいものなのか悪いものなのかというところがわからなかったのです。

中村保健体育課長 標準偏差は数値のばらつきをあらわしています。また、T得点は、平均が50点とした場合の点数化したもの、偏差値のようなものというように考えていただければと思います。

小西委員 全国よりは運動時間は多いということになりますか。

中村保健体育課長 そうですね。

中野委員長 よろしいでしょうか。

ほかにございませんか。

明石委員 このデータはデータで、その解釈をどうするか。千葉市は頑張っていていいですよ。中学校で、部活動に入っているか入っていないかは、全国でもデータがないんです。いまのところ。千葉市の部活動が多ければ運動量は増えるけれども、やっぱり体育の授業が楽しいかというのが、小学校、中学校とも千葉市は全国平均より高いんですよ。これは体育の先生は非常に自信を持って良いと思います。

だから、要するに数値がいいということの背景は何かということ、千葉市は「運動が好き」というのがそんなに高くないんです。「運動は大切」も本当に1ポイント程度高いぐらい。やはり「体育の授業が楽しい」というのが、全国に比べても非常に数値が高いんです。

次に、さっき小西委員がおっしゃったように、1週間の運動時間をどういう形で計算したのか。主観で頼ったのか、放課後とか学校で分けてくれたのかが、ちょっと見えないので何とも言えませんけれども。だから標準偏差の散らばりもそうなんです。運動量は平均も上がる。そうすると、この千葉市のデータのよさ、これが教育社会的には非常に興味深いものがある、いいデータを出してくれました。

次にお願いしたいんですけれども、千葉市がこれだけ高得点と

いうのを、「教育だより」にぜひうまく載せてほしい。これは保護者が喜びますよ。特に中学生がいい。なぜか女子中学生が元気。非常に差が出ている。

次は質問です。この4月から柔剣道とダンスが必須化されましたよね。新聞記事で、和歌山県の女子中学生にダンスをたくさんさせるとほかの運動能力が伸びたというコメントがありましたけれども、ぜひ保健体育課長に、専門家として、あのコメントがどこまで信憑性があるかをお聞きしたいのですけど。

中村保健体育課長 12月12日付の新聞に載っておりました。和歌山県について調べてみたのですが、和歌山県は武道については教員向けの実技講習を年2回行ったということでした。ダンスにつきましても、ダンスの専門家をお願いして、みんなで踊れるダンスをつくって、それをダンス学習時等の前段で、みんなで踊ったということでした。

千葉市ですが、現在、全小中学校で児童生徒の実態に応じた体力づくりの取り組みを実施しております。楽しくて、思わずたくさん運動してしまう体育学習の実施、先ほど明石委員からお褒めのお言葉をいただきましたが、体育学習を核にして、体力・運動能力の向上を図っていくということになります。

そのほかには、自主的に運動に取り組むためのカードの配布をして、鉄棒やマラソン、縄跳び等に取り組ませるといような活動、また、千葉市運動能力検定というものを千葉市独自に設定しております、そこではクリアした子には合格証を渡す。あと千葉県運動能力賞を、県もやっていることなのですが、小学校5・6年、中学校1年から3年生にカードを配布して挑戦する環境をつくっております。また、良い記録につきましても、学校ごとに体育館等に掲示をして励みにするなどという取り組みがあります。

今後ですが、千葉市は、ごらんいただいたとおり全国でもトップクラスの体力・運動能力を持っておりますので、今までの取り組みは決して間違いではないのかなというように考えておりますので、継続をしていきたい。

ただ、課題もありますので、例えば小学校のソフトボール投げにつきましても、体育学習で投げ方の指導ということをしていきたいと考えます。また、今年度からロッテマリーンズの協力をいただきまして、小学校20校でベースボールチャレンジというも

のを行いました。専門家が投げ方を指導してくれます。

また、小中学校の体育の教員向けには、これもロッセマリーンズに協力いただきまして、市教研で9月例会、223名集まりましたが、ここで実技研修会も行っております。

中学校につきましては、握力、20メートルシャトルランという課題があるのですが、保健体育の学習時に鉄棒ぶら下がりとかグーパー体操とか、また、3分から5分間走を組み入れるなどで、この項目を向上させていきたいと考えております。

和歌山が四十何位から十何位に上がったということですが、千葉市はずっと良い結果が出ておりますので、これを自信にしながら粛々と継続してまいりたいと考えております。

以上です。

明石委員 今の課長の話にあった、千葉市独自の運動能力検定の種目について教えていただきたいです。努力が何かあったんじゃないですかね。これは本当に自慢できますよ。

内山委員 全体にいい報告だなと思うのですがけれども、調査項目として、持久力走というか、その辺で欠けているので、千葉市独自の場合は入れているんですか。

中村保健体育課長 持久力は、体育・運動能力の調査の中で言えば、20メートルシャトルランです。これは、だんだんペースが上がるのですが、何往復できるかということで取り組んでおります。これが持久力というように捉えていただければと思います。

内山委員 はい、わかりました。

中村保健体育課長 先ほど明石委員から、千葉市の運動能力検定について、どんな種目だということがございましたが、やっているものが、50メートル走、走り幅跳び、ソフトボール投げ、鉄棒、水泳です。鉄棒、水泳は全国ではやっておりませんので、千葉市独自のものです。小学生だけですが、鉄棒、水泳を取り入れております。

和田委員 数字の読み方ってすごく難しいなと思うのです。例えば平均値ということでここには出ているのですが、平均値となると、すごく優秀というか記録のいい子がいて、すごく記録の悪い子がいても、平均は真ん中ぐらいになるということがあります。子どもたちの運動能力のばらつきが千葉市ではどうなっているかという調査はしていますでしょうか。

中村保健体育課長 ばらつき自体の客観的なデータはないのですが、各学校から上がってきますさまざまな報告等考えてみますと、やはり二極化

は進んでいる。非常に得意な子と、ほとんど運動ができない子との二極化が進んでいるというように捉えております。

明石委員 都市部で標準偏差がすごく大きいから。

和田委員 そうですね。すごく大きな問題だと思うので。

それと、先ほどもソフトボール投げということでありましたけれども、数字を見てみると、実は全国平均とすごく大きく差があるかというときほどないので、33位と38位という順位だけ見るととても悪いように見えるのですけれども、実際は10センチぐらいしか差がないんですよ。それと同じように、順位の高いほうでもさほど記録に差がないということもあるかと思うので、余りこのランキングということに内部では神経質にならなくてもいいのかなというふうに思いました。

それと、「オリンピック・パラリンピックへの気持ち」というところで、小学生と中学生に聞いているのですが、もちろんどちらも全国平均よりは上回っているのですが、小学生に比べると、中学生の関心が余り高くないんだなということが全項目に見えたのがちょっと気になりました。

ボランティアに関しては、やはり中学生のボランティアを推奨していますので興味があるようなのですが、余りオリンピックに夢とか希望とか楽しいとかそういう気持ちを中学生になると感じてくれなくなってしまうのかなと思ひまして、少し学校の中でもそれを鼓舞するようなことをしていただけたらなというふうに感じました。

中村保健体育課長 オリンピック・パラリンピックに関しましては、まず今後、先ほど申し上げた、アスリートが学校に来てという取り組みのほかに、例えばポートアリーナ等でも大会等が行われますので、そういったものを中学校にも積極的に紹介していくというようなことで、肌で感じる時間を増やしていくことで少しずつ関心が高まっていくことができると考えています。

中野委員長 ありがとうございます。

よろしいでしょうか。

和田委員 はい。

中野委員長 ほかにございますでしょうか。

それでは、次に行きたいと思ひます。

て

中野委員長 生涯学習振興課長、説明をお願いします。

増岡生涯学習振興課長 報告事項(6)「まなびフェスタ2015・第60回社会教育功
労者顕彰について」、説明します。

まなびフェスタにつきましては、平成13年度から行っている
事業でございます。今回で15回目を迎えました。

概要といたしましては、開催日時は平成27年12月5日、土
曜日、それと6日の日曜日でございます。

目的といたしましては、生涯学習のきっかけづくりとして、ま
た、市民の日ごろの学習の成果発表の場として開催することによ
りまして、市民による生涯学習活動の振興を図ることでございま
す。

来場者数・参加団体数ですが、来場者数につきましては、平成
27年度、表の一番右側でございますが、前年度より574人ほ
ど減って1万665人となりました。ただし、参加団体数につ
きましては、昨年の55団体に比べまして15団体増えまして70
団体となっております。この増えた内訳でございますが、13団
体は公募によるものでございます。

続きまして、2の特別講演・企画・コンサートでございますが、
生涯学習のきっかけづくりのため、特別講演会等を開催いたしま
した。(1)といたしまして特別講演会ですが、「千葉日報が見
つめた千葉の湾岸開発、歴史と展望」といたしまして、株式会社
千葉日報代表取締役社長の萩原博氏にご講演をいただいたと
ころでございます。その他につきましては以上でございます。

3の体験型イベントでございますが、公募団体により多数の体
験的なイベントが開催されました。この体験イベントの参加者
数でございますが、4,072人ほどでございます。全ての団
体に集計をお願いしたところですが、そのうち2,353人
が男女の内訳をとっていただいております。そのうち、922人
が男性、それから女性が1,431人ということで、女性の参加
がかなり多くなっているところでございます。

ページをおめくりいただきまして、そのほかには、4番のアト
リウムステージでの発表がございました。楽器演奏、それから歌
唱、ダンス、劇等、多種多様な成果の発表が行われたところ
でございます。概要につきましては、ごらんとおりです。

その他といたしまして、市の関係機関等の協力により、体験コ

一ナー等の各種イベントが開催されました。その中で、2番目の「鎧やむかしの着物の着用体験」ということで、今年度より郷土博物館のほうが参加した次第でございます。

まなびフェスタについては以上でございます。

あわせまして、この中で、第60回社会教育功労者感謝状贈呈式を行ったところでございます。「まなびフェスタ2015」の開催に合わせまして、千葉市の社会教育の発展に尽力された個人・団体を顕彰し、日ごろのすぐれた実践活動や学習成果を市民に広め、本市社会教育の一層の振興を図るため行ったものでございます。

日時につきましては、1日目の5日、午前10時から11時半に行われました。場所といたしましては2階のホールで行いまして、受賞者は56人、団体数が5団体でございます。

以上でございます。

中野委員長 ありがとうございます。

それでは、審議に移りますけれども、質問等を含めまして何かございますでしょうか。

和田委員 この来場者数ですが、これは生涯学習センターに当日入ってきた人をカウントしている数字なのでしょうか。

増岡生涯学習振興課長 全体の来場者数につきましては、入り口のところに自動のカウンターがございまして、生涯学習センター全体でございますので、目的が図書館に来る人も含まれているところでございます。

和田委員 毎年そのカウントなので特に問題はないと思うのですが、ただ、今回私も参加させていただいて、2階以上をご案内いただいたのがちょうどお昼過ぎぐらいの時間帯だったので、余計そう感じたのかもしれないですが、1階のアトリウムのあたりにいらっしゃる人数に比べると、どうしても上のほうになかなか足を運んでいただけないのかなというふうに感じました。

なので、例えば2階以上のどこかで当日参加ができて、何か目玉になるようなイベントがあれば、人の流れがとりあえず上に行って、そのほかの部屋ものぞいてみようというような気持ちになるのかと思いました。2階以上は個別の部屋になっていますよね。それがまた難しいのかなと思って堂々めぐりなのですが、このあとは企画をお任せしたいと思います。

増岡生涯学習振興課長 スタンプラリーを取り入れてすべてのブースに行ってもらいなど、いろいろ方法はあると思いますので、今後研究させていた

だければと思います。

明石委員 公募団体が56団体・56事業ですね。私はすごいなと思ったんです。そこで質問ですけれども、この56団体というのはリピーター的な感じなのでしょうか。それとも、今回手を挙げてきたのか。大ざっぱな割合がわかれば教えてください。

増岡生涯学習振興課長 当然、リピーターの団体も結構ございまして、それに、ことは特に新規の方が多く参加されていまして、一覧表というのがこちらにございますけど、後でもしよろしければ配付させていただければと思います。

明石委員 そういう質問をしたのは、文部科学省の成果指標というのがありまして、生涯学習について、個人での学習は年々減ってきているんですが、グループで参加するのは、増えてきているんです。これは個人的には非常にいいかと思っているんです。千葉市もこういう公募団体が増えてくるということは、生涯学習の成果の一つとして見てもいいかなと思ったんです。公募の手を挙げる数が増えてくれば、非常にこの成果があったというふうに読めるかなと思っています。

内山委員 私も明石委員と同じですけれども、参加団体数がプラス15団体になっていますね。それから、事業数というのがよくわからないのですが、どのような数字なのでしょうか。

増岡生涯学習振興課長 1つの団体で2つのことをやれば2事業となりますので、普通ここに出ている団体さん、公募の方につきましては、この団体数とイコールになっておりますが、ボランティア団体とか市関係団体のほうで、1団体で2つとかのところもありまして、こういう形になっております。

中野委員長 よろしいでしょうか。

ほかにはよろしいでしょうか。

ないようですので、それでは報告事項(7)に移ります。

報告事項(7) 平成27年度千葉市未来の科学者育成プログラム・ジュニア講座について

中野委員長 生涯学習振興課科学都市戦略担当課長、説明をお願いします。

西村科学都市戦略担当課長 報告事項(7)「平成27年度千葉市未来の科学者育成プログラム・ジュニア講座について」、説明します。

千葉市未来の科学者育成プログラムを行っております。これは中高生向けでございますが、今回のものはジュニア講座です。小

学校の5、6年生を今回対象にしたものです。

最初、きっかけの部分ですけれども、フェスタなどで育成プログラムのパネルを用意しておりましたので、そういったものを提示しておりますと、保護者の方から「この小学生版はないんですか」というようなお声を二桁の数聞いています。そんなことがきっかけになっています。それから、千葉市未来の科学者育成プログラムそのものについて認知度を上げたいというのがきっかけになっております。それで、本年度から千葉市未来の科学者育成プログラムのジュニア版、小学生版としてスタートしたものでございます。

趣旨については、基本的に言えば中高生版と同じですけれども、未来の科学者を目指すような意欲を、大学または研究機関と連携して質の高いプログラムを提供する中で行うということを趣旨にしております。

今回、具体的なコンセプトとして、こんなことは考えておりました。一般的に開催されている、多くのいろんなところで行われている科学講座や、または工作教室とは違うんだということを明確に出したいというのが趣旨でございます。ですから、「きょうはこの工作をやるよ」と言って集めるものではない、「この学習をするよ」というものではない、非常に主体的な姿勢を求めているというのが今回のジュニア講座の趣旨です。

それで、そこに四角が2つありますけれども、実は上の四角が、今回は2回行っておりますけれども、1回目のコンセプトです。主体的な探究活動の楽しさを味わわせたい、または自分で実験の計画を立てていかせたい、または発表を人前でさせたい、そういったものについて1回目、これはしかも内容的には1分野の内容、中学校でいう1分野、物理・化学の内容。

それから、下の四角ですけれども、主体的な探究活動を支えるために、基礎技能の習得。これは2分野の観察を中心にした内容で、11月に行ったものについては、ここの部分にウエートを置いて構成しているところでございます。

それから、ジュニア講座の特色として、これは教育委員会だからできるんだということがあってもいいだろうというふうに思いまして、この講座に対しては、保護者が引率して、最後、送って帰っていただくというところで、せっかく保護者の方が来ていただくのならば、今回の趣旨とか、または家庭での助言ができる

ようなアドバイスができればというふうに考えております。また、発表会を最後で行う。そこは保護者の方に入ってもらって、きょうの成果を実際に聞いてもらう。そんなようなことを狙っていました。

それから、これは教育委員会ならではだと思っておりますけれども、今回、校長会の先生方のご協力、または賛同を得まして、現職の小学校の先生を指導協力者としてこのプログラムに参加して協力していただいております。こういった部分については教育委員会でないといけないと思えますし、校長先生方からは、教員の研修の場にもなるので、ぜひどんどんやってくださいというふうなご支持の言葉をいただいております。

今回は、そういった意味で1回目を7月に千葉大教育学部で、2回目を県立中央博物館のほうで行ったものでございます。2回目につきましては、本来は泉自然公園を予定しておったのですが、雨天でしたので、雨天計画ということで中央博物館での開催というふうになりました。

では、具体的に2回分につきまして概要を述べさせていただきます。

1回目です。これは7月12日、暑い日だったのですが、大学はエアコンがきいておりますので、非常に快適でした。小学校の5、6年生30名で行いました。もともと60名の応募があったので、定員は本当は15で進めていりましたが、定員の4倍になりましたので、非常に残念だったのですが抽せんをして半分にさせていただきました。

千葉大教育学部で行って、講師としては理科教育の研究者である大寫先生に入ってくださいました。それから、小学校の先生方10名に入ってくださいました。

写真についてはこの概要ですけれども、最初、大寫先生のほうからきょうの実験の概要を説明してもらいました。

実は、主だったものとして3つの実験を紹介してもらったのですけれども、まず「跳び上がるおもちゃ」。こういう紙を、輪ゴムをつけてひっくり返して飛ぶやつです。それから、「翼のあるおもちゃ」といっても実際にはこんなものなんです。紙を切って折ったただけ。こうすると、回転してプロペラのように落ちます。それからもう1個、「倒れるおもちゃ」、これです。おもちゃと呼べるほどのものではないのかもしれませんが、「かそりーぬ」

が入っていますのでこれは遊びですけれども、実際にはペットボトルを、下に斜面を敷きまして、この斜面の角度を傾けていくと倒れるわけですが、ここに液体とかいろいろなものが入りますと倒れ方が変わります。

そういった3つの実験例を先生のほうから紹介していく。子どもたちにその実験を選ばせて、それで、じゃあ何で調べていこうかということでテーマを決めさせて、あとは自分のテーマに基づいて、実験の材料もそこにジャンクコーナーのように、下の写真にありますけれども、必要な実験材料も全部自分たちで選ばせる。ですから、ごちゃまぜに置いてあるところから選ばせる。

それで、あとは各自が実験をしているところでございます。紙片を落とすところは椅子に乗かって上から落としたりして、何秒で落ちるのか、できるだけ遅くするにはどうしたらいいのか、そんなようなことをテーマにしていました。

それから、ちょっと女の子が下を向いていますけれども、ペットボトルが、斜面にされていてどこで倒れるのか、液の量を変えていって実験していました。

そういうふうな、何をしなさいといったことも自分たちで考えて、変えることと測定することを明らかにして、予想をグラフにさせて、それで探究をしていたものでございます。

では、次のスライドをお願いします。

今回の場合、ノートというのは模造紙でした。発表にそのまま使えるように、模造紙をノートにして、間違ったら間違っただいいから、色を変えて直しなさいということで先生のほうから指示がありまして、模造紙を発表資料とあわせて、そこにグラフのデータ、表、結果などを書きました。

最後は、後ろのほうには、協力いただいた先生方とともに保護者の方がいるんですけれども、発表会を行いました。1人1分ということでしたけれども、1人2分丸々発表していました。

終えての感じとしては、そのグラフがございましてけれども、これが実は1回目と2回目で若干傾向が違います。1回目も2回目も楽しかったという部分は変わらないで、ほとんど全員が「楽しかった」「とても楽しかった」と。特に困ってある部分、「よく考え工夫した」というのがこの1回目の非常に特徴でして、いろんな部分を自分で考えさせていますので、ある意味では追い込んでいる内容なんですけれども、そういったものの中で、大変だっ

たけど学びは大きかった、達成感があったというようなことが感想の中にもたくさん見られました。こういったものも、中には自由研究の中で活用しているお子さんがいました。

それでは、2回目の部分ですけれども、2回目、雨のために中央博物館で行ったわけですが、11月15日です。こちらにつきましても、参加者は20名定員で19名だったので、ほぼ定員だったのですけれども、正直なところ、集めるのに苦労しました。時期的なものがあるんですね。バザーですとか学校の行事、地域の行事、それから6年生ですと入学試験の説明会ですとか、いろいろなものがかかっていたせいでしょうか、最初は出足が非常に悪くて困ったなと思ったところですが、ほぼ定員で行うことができました。

講師の先生は中央博物館の斎木健一先生、植物の研究をされている方です。こちらのほうは植物を中心にやってもらって、野外観察の基礎ということで、技能の習得を目指すということを狙っております。1回目のものはどちらかというと考え方なんですけれども、考え方だけ身につけても、実際にやはりきちっと技能が身につけていないとデータを蓄積できません。そういったことも考えまして、今回は2分野的に、観察を軸にということを行ったものです。

先生のほうで説明していただいて、先生は下を向いていらっしやいますけれども、ルーペの使い方を実際に実演で示していただきました。目に近づけるんだと。そういった器具の使い方から、または双眼実体顕微鏡、中学校で主に使うものですが、そういったものを指導して、使い方を十分にマスターさせた上で、植物ですので、最初に植物図鑑で植物を当てろというようなゲームを行いました。その中で、いろんな植物に関する用語等を覚えていく。

グループの中で決めて、これがこの植物なんだというのがわかった段階で手を挙げる。そういったゲーム感覚で植物の名前を当ててる中で、植物の用語、それから図鑑のつくり、そういったものを理解してもらいました。その後は逆に、植物の名前を教えて、違いがわかるような分類表、または検索表をつくるということを行いました。

その下、泉自然公園の翌日の写真ですが、非常に紅葉のいい時期でした。そういった意味では残念だったんですけれども、

逆によかった点もたくさんありました。

この後いろいろな、カエデ6種類、ドングリ6種類、マツカサ6種類。これは泉自然公園で、先生のほうで天気が悪かったことを想定して、資料をある程度用意していただきました。そうしたこともあって、準備も完全だったこともあって、じっくり観察する時間を確保することができました。または、スケッチしたり討議したりする時間がとれたというのは、逆によかった部分でもありました。

午後は雨が上がりましたので、デジカメの使い方ということで、植物をデジカメで撮る。子どもたちは、デジカメで写真を撮るといっても1枚撮って終わってしまうわけですが、先生からは、「6枚ぐらい撮らないとこの植物は後で調べられないよ。それから、大きさもわからなければだめでしょう。または全体、花だけ、葉っぱの裏表、そういったものを撮っていかなければだめなんだ」と、そういった具体的な助言を受けました。

また、写真に昆虫が写っていますけど、あれは本物ですが、実際には虫はそう簡単にいないので、蝶々のモデルを置いて、こういった虫の場合どうするのかというようなことで、徐々に近づいていって撮るとか、非常に貴重なポイントを教えてもらいました。

最後、子どもたちがいろいろ分類したものの検索表というものをつくって、保護者が確認するというような形の発表会を行いました。こちらの部分は、最後、グラフをごらんになっていただくとわかると思いますけれども、「調べ方がわかった」という部分が非常に高ポイントになっています。「やはり内容の違いがよくあらわれているな」というふうに思っています。

それから、今回、泉自然公園ではなくて残念だったのですが、中央博物館であったために、やはり大きなメリットがありました。場所のよさというか、立地のよさが一つ。それから、保護者の方がご家族でお子さんを引率されて、そのあいた時間は博物館を見ている。そういったような時間に充てたりして大変よかったです。いわゆる控室的なものがとても大事だなということが、やってみてわかったことでございます。

今後のことになりますけれども、今回、通常の学校の授業とは違うスタイルで行いましたけれども、2回とも楽しく充実した活動になったかなと思っております。児童・保護者からも大変好評であり、また「来年、育成プログラムに入れたいと思います」と

直に私に伝えてくれた保護者の方もいらっしゃいました。

それから、今後の部分で、例えば千葉大学での講座は非常に人気がありました。こういった部分については、同一の内容で土日連続とか、そういったものは考えられるなというふうに感じております。ただ、私たちも中学校の試験前で、中学生向けの講座ができないすき間にやっていて、期間的にはなかなか自由がきかないところもあるのが現実なので、今後、いろんな学校行事、地域の行事との重複とか、または6年生が応募しにくい状況ということでしたら小4に合わせた内容、そういったものを今後検討していきたいと思います。

いずれにしても、小学生向けの講座の拡充を図るということは意味があるなと思ひまして、特に保護者の方がご家庭に戻って、それをご家族で話題にさせていただけるということは、科学都市戦略上も非常に都合がいいことかなと思っております。

以上でございます。

中野委員長 ありがとうございます。

それでは、審議に移りますが、質問等を含めまして何かございますでしょうか。

内山委員 私、両方参加させていただきまされたけれども、コンセプトもすばらしいし、また、達成感も子どもたちが持てて、いい企画だったと思います。

幾つかあるんですけども、7月、第1回的时候には、模造紙にまとめを各個人それぞれ書くんですね。これも子どもたちはある程度、競争心といいましようか、相手を褒めるという気持ちだとかいろいろ含めまして、しばらく見ておりましたけれども、とてもよかったと思います。

それから、2回目ですけども、これは齋木先生ですか、4日ぐらい前に行って、ドングリとかマツカサを全部集めて、整理して、ちゃんとこれが調べられるように6種類に分けて、あれはすごいなと思ひました。

そういうご協力があったと思ひますのでですけども、一つ感心したのは、やはり子どもたちが発表し、そして今度は保護者が、「このドングリはどういうものですか」というふうに見ながら指すんです。大体当たりますけれどもね。そういった保護者も参加できるという意味で、非常におもしろいと思ひました。これは立派な企画で、よかったと思ひます。

明石委員 私も、参加していないけれども、非常に素晴らしい企画だと思います。

そこで質問なんですけれども、2回目の中央博物館に参加した19名の中で、リピーターは何人ぐらいいるのでしょうか。人集めに苦労されたというけれども、1回目の30名が非常に数値が高いので、リピーターは何人ぐらいいたかがもしわかれば。

西村科学都市戦略担当課長 2回目の19人のうち、実は9名が1回目応募した子です。ですから、実際に受けた子です。実はもう1名、1回目、簡単に言うと、抽せんでダメだったけれども今回申し込んだ子が1名です。ですからおよそ半分。

明石委員 2つ目の質問は、小学校の教師が10名と7名来ていますよね。これはどういう選抜をされたのでしょうか。

西村科学都市戦略担当課長 これにつきましては、校長会の先生と相談させていただいてご紹介いただいた部分もごさいます。または、市教研で理科を中心にやっていらっしゃる、特に若手と呼ばれている10年経験ぐらいの人を、かなりいろいろ電話して、可能な方をお願いしたというところです。ですので、大体年齢層的にはそろっているような、そこら辺の年齢の人に見ていただいただけでも大変参考になるだろうというご指導も校長先生方からいただいておりますので、そんなようなことをしています。

明石委員 そういう質問をしたのは、ボランティアとして行かれたのか、それとも仕事の一部として行かれたのかを聞いたかったからです。例えば、農山村留学がありますよね。初任研の中で、中学校の先生が6年生の農山村留学を体験するという研修の一つとして入れており、6年生の農山村留学を体験すると、中学校に上がってくる児童を理解できるという狙いがありましたよね。

今回も、仕組みとしてつくるためには、強制したら1回は出ますけど、2回は出ないんですよね。だから、そういう意味で今後、校長会にお願いに行ったとか理科部会にお願いしたというのはわかるんですけども、仕組みとして、これはいいことなんだからもう少し、研修なのか、それとも社会貢献なのかとか、そういうふうなことをしてくれれば、このいい企画がもっと定着してくるかなと思いましたので、その辺ご検討願いたいです。

西村科学都市戦略担当課長 今回につきましては、実質ボランティアということで進めさせていただきましたけど、ぜひ検討したいと思います。

明石委員 次は意見ですけど、これをできたら初任研と理科研修のとき

に、教育センターとタイアップして、1人1コマぐらい、こういう形で参加させると、実験はやっぱり考える工夫が伸びてくる。自然観察は調べる力が出ているんですよね。こういうことを研修でしてくれると、20代後半、30代の方が増えているのでいいかなと。また、生涯学習部でやっている事業だけれども、それを指導課とうまく連携してつくってくれると、1コマでいいから教員研修の中に当てはめてくれるといいかなというのが一つの意見なんです。

もう一つは、文部科学省の社会教育課が、土曜の教育活動で大学等と連携してやると補助金を出してくれるんですよね。それを活用してやることもできるんですよね。非常にいいことをやってくれているので、仕組みをつくっていただけるといいかと思いません。

西村科学都市戦略担当課長 ありがとうございます。

中野委員長 ありがとうございます。

ほかに、よろしいでしょうか。

和田委員 課長のお話を伺えば伺うほど、ご苦労があるんだということがひしひしと伝わってまいりまして、少ない予算で大きな人の力とご協力をいただいて、この立派な事業が成り立っているなということを感じました。

中でも、このジュニア講座を開くに当たってのコンセプトを先ほどはっきりご説明いただきましたけれども、一般的に開催されている受動的な科学講座とか工作教室ではないもの、千葉市教育委員会ならではのものをとということで、はっきりと明確に打ち出していたらいいのこのプログラムづくりだったので、今後もぜひこの路線で進めていただきたいなと思いました。

あと、先ほど小学校の先生方が入っているということについて、私、一回目の7月の講座に伺ったんですが、非常に積極的にかかわってくださっていました。もちろん専門なんですけど、中学レベルの先生方がかかわっているのかなと思うようなかわり方をしてくださって、子どもたちにも非常に有効だったと思いますので、明石委員がおっしゃったような研修ということも含めて、今後ぜひ考えていただければと思いました。

中野委員長 ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、以上で本日の議事日程記載の案件に係る審議は終了しました。

委員の皆さん、その他として、ご意見、ご質問等何かございますでしょうか。

それでは、最後に事務局から何か連絡はございますでしょうか。

8 その他

(1) 平成28年第1回定例会は、平成28年1月20日（水）午後2時より開催することが決定した。

9 閉会

中野委員長より閉会を宣言